

基本的考え方

I 新規恒久施設等の後利用の基本的考え方

【施設の有効活用】

- ・ 週末だけでなく、平日も多くの人で賑わう施設としていく。
- ・ 国際大会など大規模なスポーツ大会を戦略的かつ継続的に誘致するとともに、地域住民が利用できる施設にしていく
- ・ 単一のスポーツ施設とするのではなく、複数の競技で利用でき、レクリエーションや集客施設などとしても機能する多機能複合施設としていく。

【施設の運営手法】

- ・ 指定管理者制度やその他官民連携手法などの民間を活用した最適な運営方法や、競技団体が参画できるような仕組みも検討する。
- ・ イベントやにぎわい施設の誘致などにより、施設の利活用の促進と事業性の向上を図る必要がある。

II 地域・まちづくりとの連携

【周辺施設との連携】

- ・ 公園や豊かな自然環境、多様なレジャースポットなどの周辺施設との連携を図ることにより、様々な人々が集い交流が生まれる賑わいの拠点としていく。

【面的な広がりのあるレガシーの検討】

- ・ 個別施設の後利用を考えるだけでなく、各施設を包含する臨海部全体を視野に入れた検討も必要である。

III アクセシビリティへの配慮

【施設のアクセシビリティ】

- ・ 多世代、障害の有無を超えて利用できる「アクセシビリティ」に配慮した施設の設計をする。

【交通アクセスの改善】

- ・ 各施設へのバス路線の拡充、施設間の交通手段や駐車場の確保、施設周辺も含めた自転車車の活用など、利用者目線に立った交通アクセスの改善が必要である。

【多言語対応の推進】

- ・ 施設における多言語による案内表記等を充実していく。

IV その他の取組

【環境への配慮】

- ・ 施設の整備にあたっては、高い水準の環境性能を確保していく。

【水上スポーツの普及啓発と施設間の連携】

- ・ セーリング、ボート、カヌーなど様々な水上スポーツを、都民に体験を通じて親しんでもらえるよう、一体的に分かりやすく啓発していく必要がある。

【地方都市との連携】

- ・ 都会で水上スポーツ体験をし、地方での本格的な利用を促すなど、地方との連携を強化する。

【ソフト面における多様な活用】

- ・ 文化の発信や産業振興、教育活動の充実を図るなど、ソフト面から多様な活用を図る。

【都民との連携】

- ・ 施設整備の計画段階から、都民との連携を深め、大会後も愛着を持って利用してもらえるような仕組みを作っていく必要がある。

【災害時の活用】

- ・ 備蓄等の確保を進めるとともに、震災時の一時滞在施設等として活用していく。

【施設に共通するコンセプト】

- ・ 今回整備する施設に共通する施設コンセプトが必要である。

各施設の方向性	後利用の方向性
オリンピック アクアティクスセンター	世界的な大会等が開催される国際水泳場として、また、都民も利用できる水泳場として活用していく
海の森水上競技場	ボート・カヌーができる競技場及び育成・強化の拠点とするほか、多目的な水面利用を図り、都民のレクリエーションの場、憩いの場としていく
有明アリーナ	国際大会を含むスポーツ大会や各種イベントなどに利用できる新たなスポーツ・文化の拠点となる施設としていく
カヌー・スラローム会場	カヌーのスラローム競技場を利用してラフティング等も楽しめる、周辺の公園や水域と一体となったレクリエーション施設としていく
大井ホッケー競技場	都内有数の多目的人工芝競技場として、ホッケーその他の競技の拠点としていく
アーチェリー会場 (夢の島公園)	アーチェリーを中心としつつ、都民・公園利用者に対し、様々なスポーツの機会を提供する施設としていく
若洲ヨット訓練所	セーリングをはじめとする水上スポーツの拠点となる、都民が海辺のスポーツ・レクリエーションを楽しめる施設としていく